



独立行政法人国立美術館
国立アートリサーチセンター
National Center for Art Research

深める

日本のアートに関する国内外の研究活動を促進するために、NCARではどのようなことを行っているのでしょうか



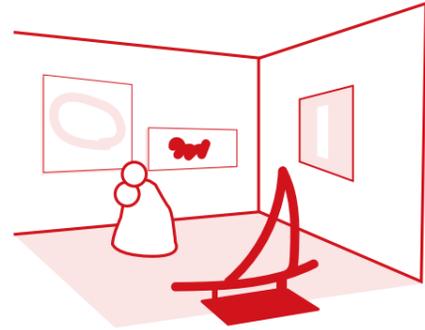
日本のアートのリサーチ支援

日本のアートに関する総合サイト「アートプラットフォームジャパン(APJ)」は、日本の近現代アートや日本全国の美術館コレクションに関する情報を広く集めたリサーチポータルです。アーティストや作品の検索ができるデータベース「日本アーティスト事典」、「全国美術館収蔵品サーチ[SHŪZŌ]」や、重要な文献の英訳などを掲載し、日本のアートのリサーチ支援に努めています。

収蔵品データ

443,842 件

データベース
「全国美術館収蔵品サーチ[SHŪZŌ]」の
収録収蔵品数



展覧会データ

2,441 件

データベース「日本の現代アート展覧会
1945年以降」の収録展覧会数

画廊・アートスペース

2,593 件

データベース「日本の画廊・アートスペース」の
収録施設数

協力者

290 人

協力組織

78 組織

収蔵品データベース連携組織

212 組織



アーティスト基礎データ

5,260 件

データベース「日本アーティスト事典」の収録作家数



文献の翻訳

日本の近現代アートに関する重要な文献を翻訳し、また、アートに関する先進的な取り組みを紹介した海外の文献を日本語に翻訳し、ウェブサイトで公開しています。



日本の近現代美術に関する
日本語文献の英語翻訳

12 件

岡本太郎「縄文土器論」(『みづゑ』558号(1952年2月):3-10頁)、小田原のどか「なぜ女性の彫刻家は現れないのか?」『美術手帖』73巻1089号(2021年8月):92-97頁)など

海外のウェルビーイング・アクセシビリティに関する
英語文献の日本語翻訳

3 件

『クリエイティブ・ヘルス:健康とウェルビーイングに寄与する
芸術活動(要約版)』、『ミュージアムにおけるクリエイティブ思考』、
『Facing Change(変化と向き合う)ーアメリカ博物館連盟
ダイバーシティ、エクイティ、アクセシビリティ、インクルージョン
に関するワーキング・グループの理解ー』



美術館やアートに関する意識調査

6 件

美術館やアートに関するさまざまな意識調査を
実施し、調査結果の一部を公開しています。
「2024年度 美術館に関する意識調査」(関東
エリア)、(関西エリア)など



数字で 見る、知る NCAR

2023.3—2025.3

国立アートリサーチセンター(略称:NCAR)は、
2023年3月に設立された、アート振興の推進拠点です。

「アートをつなげる、深める、広げる」をミッションとして掲げ、国内外の美術館や研究機関をはじめ社会のさまざまな人々をつなぎながら、アートに関する情報集約と国内外への発信、美術館コレクションの活用促進、国際ネットワークの構築、ラーニングの拡充などに取り組んでいます。



独立行政法人国立美術館
国立アートリサーチセンター
National Center for Art Research



<https://ncar.artmuseums.go.jp/>

タイランド・ビエンナーレ チェンライ 2023 鳥袋道浩《Flying People》ワークショップの様子 (Courtesy of the artist)
NCAR は本ビエンナーレにおいて日本のアーティストの出展を支援しました。

つなげる



つなげた人
933人
[660 組織]

つなげた国・地域
21



訪問した国・地域
15

アメリカ、アルゼンチン、イギリス、オーストラリア、カナダ、韓国、シンガポール、スペイン、タイ、台湾、中国、ドイツ、ブラジル、フランス、ポルトガル

招聘した国・地域
17

アメリカ、イギリス、イタリア、インドネシア、オーストラリア、カナダ、韓国、スイス、スウェーデン、タイ、台湾、中国、ドイツ、ノルウェー、ブラジル、フランス、ポーランド

外部の研究機関等と協働している活動

協働者
63人
[48 組織]

美術館や外部の専門家・研究機関・企業・地方自治体等と連携して、さまざまな研究活動を行っています。

国際的な共通課題をめぐる研究会(マルセル・デュシャン(大ガラス)レプリカをめぐる)など

現代アート分野の若手人材の海外での活躍を促進するプログラムを実施しています。

「JUMP アーティスト+キュレーター国際協働プログラム」文化庁 | 文化芸術活動基盤強化基金(クリエイター育成・文化施設高付加価値化支援事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会

社会連携事業を通じてつながりができた企業・団体

57 団体

さまざまな企業・団体との分野を横断した多様な連携(パートナーシップ)の構築によって、アートの社会的価値の向上につながる活動を推進しています。

社会連携事業

シンポジウム、ワークショップ、講演会など

イベント開催 **28** 回
登壇者 **189** 人
[140 組織から]

国内外の美術館関係者や専門家を招聘し、美術館の役割や社会への貢献について考えるシンポジウムや、美術作品の保存修復などに関する海外の先駆的な知識・技術を紹介するワークショップ、企業・団体に向けた美術館のアートプログラムなどを開催しています。



企業・団体向けアートプログラム ©io



文化財修復処置に関するワークショップ「モジュラー・クリーニング・プログラム利用について」



NCAR共創フォーラムVol.1「Art, Health & Wellbeingミュージアムで幸せになる。英国編」撮影:藤島亮

ウェブサイトでの発信

NCARのウェブサイトでは、さまざまな分野の方とセンター長が対談する動画や、全国の美術館のスタッフが自館の所蔵作品を紹介する記事など、アートの魅力を社会に伝えるためのコンテンツや、NCARの活動の報告記事を発信しています。また、NCARは、日本のアートに関する総合サイト「アートプラットフォームジャパン(APJ)」およびアートとウェルビーイングをテーマとしたウェブメディア「ああともTODAY」を運営しています。



執筆・出演者
61人
[37 組織から]

コレクションを活用した展覧会

6 件
国立美術館のコレクションを各地で公開するとともに、地域の美術館のコレクションの活性化を図る2つの事業「コレクション・ダイアログ」と「コレクション・プラス」を行い、美術館のコレクションの活用を進めています。



コレクション・プラス「刑部人とギュスターヴ・クールベ 風景画家たちの眼」栃木県立美術館(会期:2024/10/26 - 2024/12/22)

コレクション・プラス 預り事業「鴨居玲のスペイン時代—スベイン・パロックの巨匠ジュゼペ・デ・リベラの作品とともに」長崎県美術館(会期:2023/4/7 - 2023/6/11)など

入場者(コレクションを活用した展覧会)
63,511人

国際的なネットワーク構築

国内外の美術関係者のネットワークづくりのため、日本の美術関係者を海外に派遣するスタディ・ツアーや海外の専門家を招聘する交流事業などを行っています。

海外に派遣した専門家
56人 [37 組織]

訪問した海外の美術館など **45** 箇所
お会いした人 **225** 人



スタディ・ツアーでの交流の様子(カナダ国立美術館)



ウェブサイト総アクセス数
(NCAR サイト、APJ、ああとも TODAY サイト)
919,820 回

SNS 総フォロー
(X, Facebook, Instagram, YouTube, Vimeo)
3,147 人

YouTube・Vimeo 動画
107 本
動画総再生 **96,407** 回

アーティストの国際発信

日本の現代美術の国際的な存在感向上を目指して、国際展のディレクター・キュレーターへの日本でのリサーチや日本のアーティストが参加する国際展を支援しています。

支援した国際展 **13** 件 [3キュレーター 46アーティスト]

入場者(支援した国際展)
4,958,575 人



「バンク・オブ・アート・ビエンナーレ2024」での展示風景(山下麻衣+小林直人によるインスタレーション 写真提供:バンク・オブ・アート・アンド・カルチャー・センター)

ウェブサイトに掲載した記事
(NCAR サイト、ああとも TODAY サイト)
146 本

令和6年度文化庁委託事業「障害者等による文化芸術活動推進事業」ミュージアム・アクセシビリティ講座 ふかふかTV
登録者 **1,500** 人
動画視聴回数 **9,337** 回

あらゆる人が美術館にアクセスできる機会を充実させることを目的として、美術館におけるアクセシビリティについて学ぶeラーニング講座を配信しました。



オリエンテーション動画(NCARサイトにて公開)



発行物
12 件 **18** 種

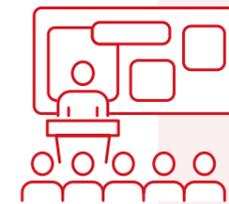
発行 **35,250** 部

NCARが行っている調査研究にもとづいた最新の情報・指針や、国内外の先進的な取り組みなどを紹介する冊子を発行し、ウェブサイトにも公開しています。

「Social Story (ソーシャルストーリー)はじめて美術館にいきます。」国立美術館7館分など



「ミュージアムの事例(ケース)から知る! 学ぶ! 合理的配慮のハンドブック」



シンポジウム、ワークショップ、講演会などへの参加者

7,365 人



NCARの活動はどれだけの人に届いたのでしょうか

拡げる

※2 イベントへの参加者数やウェブサイトのアクセス数、展覧会への入場者数、発行物の数などを示しました。

※1 イベントの登壇者や各種事業への協力者、共同研究者など、つながった専門家とその所属機関の数を示しました。